長洲町立長洲小学校　校長便り　№１３１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１１月６日(月)

経験則⑤「本当の友だちとは」#2

どんなに永く会っていなくても、すぐに打ち解けて何でも話せる親友がいますね。私の親友もそうです。１年ぶりの飲み会であっても、話題は充実していた青春時代に戻ります。それは何故なのでしょう。私はこう思います。

「何事にも全力でぶつかり、必死で向き合い、遠慮などしなかったから。」

この感覚は、つるんでいた人にはわからないと思います。私には２人の親友がいると書きましたが、この２人とは本当にぶつかり合ったと思います。小学校の時のケンカも然り、野球も然り、中学時代の学習も然り、高校大学時代の進路選択も然り、社会人となって仕事論を戦わせる時も然り、家族観や人生観を戦わせることも然り、色々な場面で気持ちをぶつけ合ってきましたし、今後もそうでしょう。この２人と話をする時は、相手を非難することも多いです。ちょっとでも相手に嫌われると思うようなことは言わないでおこう…、私たちはその逆を行きます。嫌われようが何だろうが思ったことを言い合い、本音で議論します。年に数回、お酒を飲みながらの話なので大変ではありますが、帰りは「またな。」と別れていきます。

そう言えば、中学時代こんなことがありました。確か３年の時の２学期期末テストの時でした。ある生徒がカンニングをしました。その時、何となくざわついていて、私は「何かあったのかな?」という違和感がありました。テストが終わり、クラスの優等生のM子さんが黒板の前に立ち「カンニングはいけないと思います!」と叫んだのです。何が起こったのか私はしばらく理解できませんでした。その後の休み時間にこのような会話がなされていました。

「さっきのM子の行動、どう思う?　チクるかもよ。」

「カンニングくらい誰でもやってるよね。何か腹が立つ…。」

私はその二人とはよく話す仲だったのですが、どうもこの行動は頂けませんでしたね。そうこうしているうちに、次の時間が始まりました。私は親友に相談しました。「どうする?　やっぱ真面目が馬鹿にされたらいかんやろ。先生に言いに行こう。」　私は２人で言いに行きました。その後、私たちはいじめられるでもなく、もともと学級の中では中心で活動していたので、その時、真面目を通したことは正解だったと思っています。大体が「つるむ関係」は、この真面目さを馬鹿にし、駆逐します。それは非常に卑怯なことです。この様な関係は、現在の小学校中学校でも見られる現象です。保護者の皆様も経験がありませんか?　こんな言葉をかけられたってこと

「なんかっこつけよっとや。」とか「まじめぶんなよ。」

つるんで楽な方に流されるとこの様な発言が出てくるんですよ。上辺だけの関係性でつるんでいるので、互いを切磋琢磨する等の感覚は全くありません。低い価値観でたらけているだけです。どこに行っても、何歳になっても、是々非々の考え方で「真面目」を貫くことはカッコいいことだと私は思います。皆さんはどのように考えますか?

シリーズ「自分を語る」#131

荒尾第一小学校への異動が決まり、その準備が始まりました。先ずは、荒尾第一小学校へ電話でのご挨拶です。緊張して電話したことを覚えていますが、内容はほとんど覚えていません。ただ、３月29日に異動者全員で集まることだけは覚えています。とにかくあの時は、教頭としてやっていけるのか、これからどんな業務が待っているのだろうかという、不安ばかりが意識の中で先行していました。そもそも、私はこの時点で教頭の業務を何となくしか解っておらず、実際の事務処理は殆ど経験していないものですから、不安で仕方がなかったことを覚えています。

３月29日を迎えました。南ヶ丘小学校では校長先生教頭先生が笑顔で送り出してくれました。昼前に学校を出発して途中で昼食を摂ったのですが、それにしても合志市から荒尾第一小学校まで１時間30分掛かりました。荒尾第一小学校へは午後１時頃の到着だったと思うのですが、とにかく「遠いなぁ…」と感じました。それが私の不安を煽るようで、自信さえも無くしていくような感じでした。

さて、その年度の異動者が一堂に会し、校長先生から来年度（平成28年度）の学校経営構想の説明を聞きます。この作業はとても重要な作業で、前任者と異動者が同じ視点に立ち平成28年度をスタートさせるのですから、経営構想を全職員が共有しておく必要があるのです。この時の私の中には、経営構想を聴きながら、内容がストンと腑に落ちる自分と、私は教頭として学校経営のサポートができるだろうかという不安を抱く自分とが入り混じっていました。

異動者が校長先生のお話を聞く時間は１時間程度でしたが、私は前任の教頭先生から引継ぎを受けなければなりません。その時、時刻は午後２時過ぎだったと思います。それから、膨大な量の教頭業務について引継ぎを受けます。約５時間掛かりました。あの時の正直な気持ちを言葉にするならば…、「泣きたい、辞めたい、辞退したい…」でした。今でこそ、達成感、充実感を覚えていますが、あの時の私は不安で仕方がありませんでした。不安の中でも仕事は覚えなければなりませんし、何より他の先生方は私を「教頭先生」と呼ぶのです。私の様な者でも頼られるのです。当時、ある先生から「立場や責任は人を育てる」と言われたことがあります。励ましのお言葉だと気付いたのは、それから暫く経ってからのことです。

こうして私は、平成28年度、荒尾市立荒尾第一小学校の教頭として着任しました。この年、主幹教諭も新任者が着任し、当時の校長先生は大変だったと思われます。何せ、超ベテラン校長と、新米教頭でスタートですから。

４月１日は金曜日、新年度スタートの日は、辞令交付の日でもあります。確か、通常通り出勤して、しばらく校長先生と打ち合わせをしたと思います。思いますという表現は当時の事をあまり覚えていないからです。兎に角話がチンプンカンプンで、私自身にもそれを理解するだけのキャパシティが無かったのだと思います。午前中、何となく仕事をして?辞令交付のために早めに学校を出発しました。管外からの転入者でしたので、玉名教育事務所で辞令を受け取る必要がありました。緊張の連続で、胃の調子がおかしかったことを覚えています。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）